

☆春季総体&煌奏祭を終えて (各部代表のコメント②)

「部員全体が最後の最後まで諦めずボールを追いかけて続けました。相手は強かったです自分たちのプレーを出しきることができ、とてもよい試合ができました。悔いはないです!!」
(城地恭子 女子バスケットボール部主将)

「仁愛戦、第2Qは君たちが取りました。あの時のチームの勢い、雰囲気は忘れません。3年生は次のステージに向け、1, 2年生は更に上を目指し頑張っていきましょう。」(女子バスケットボール顧問)

「今回は、多くの選手が悔いの残る結果に終わってしまいました。しかし、この弓道部でしか得られないかったことやみんなが同じ思いでした。このことに向かっ努力するすばらしさを学ぶことができません。また、弓道は勝ち負けがすべてでなく、礼儀や相手への感謝を大切にスポーツです。部活動で学んだ弓道精神を忘れず今後に大生かしていきたいと思います。応援して下さい。ありがとうございました。」(布川菜々 弓道部・女子主将)

「僕たちは『ベスト8』という目標で総体に挑みましたが、結果は2回戦敗退(ベスト16)に終わってしまいました。けれども、1回戦では最初に10点くらいリードされてしまったけれども、出場して5人だけではなくベンチやベンチ外の選手などチーム一丸となっていて何とか競り勝つことができました。2回戦ではシード校相手に負けはしたもののアップの時や試合の時など声かけやチームの団結力は勝っていたと思うし、とてもいいチームだと思いました。このメンバーでバスケができて本当に楽しかったです。」
(宇野厚志 男子バスケットボール部主将)

「今回の総体は3位という結果に終わりました。自分たちのバレーが少ししかできなかったのもその所は反省すべき所だと思いました。ですが、まだ北信越大会があるので総体でできなかったことをしっかりやりきって、自分たちが満足できるような試合をしたいと思います。」(辻泰生 男子バレーボール部主将)

「遠征や練習で培った『体力』で最後まで戦い抜きました。北信越大会では『気力』を出しきり最高の大高バレーを炸裂させて下さい。」(男子バレーボール顧問)

「今回の春季総体で、格上の相手でも最後まで諦めず全力でプレーするという目標を達成できたように思えます。結果は残念なものだったかもしれませんが、1人1人が悔いの残らない試合をすることができ、自分たちにとって、とてもよい経験になりました。」
(澤田紬 女子バドミントン部主将)

担任の先生方は、必要部分を読み聞かせ、しばらく教室掲示して下さい。